

# 平成25年度「預かり（一時保育）」の事後調査

## 【調査方法】

1. 手続き：担任を介して保護者へ質問紙を一斉配布し、各学級ポストを用いて回収
2. 調査期間：12/6（金）～12/10（火）
3. 調査対象：附属幼稚園小金井園舎の全保護者（回答があった保護者は131名）
4. 質問紙の構成

はじめに 子どもの性別・学年・クラス

1. 保護者会時の子どもの預け先
2. 利用有無
3. 利用の感想（利用/不利用理由、両園への信頼感、満足感や育児感情の変化）
4. 今後の利用（料金上限や預け先の優先順位等）
5. 「預かり保育」に対する意見・感想

## 【調査結果】

### 1. 在園児や未就園児の預け先

#### (1) 在園児

- ①父親13名、②祖父母等51名、③他学年の保護者6名、④近所の友人・知人4名、  
⑤ファミリー・サポート4名、⑥留守番4名、⑦預かり保育33名、  
⑧保護者会へ同行2名、⑨保護者会不参加11名、⑩近隣施設3名、

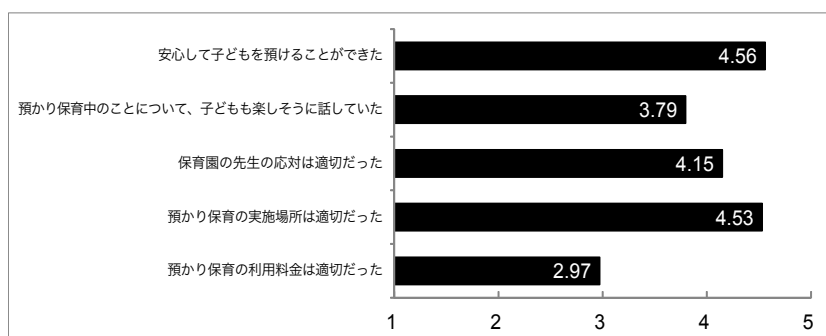
#### (2) 未就園児

- ①父親5名、②祖父母等26名、③他学年の保護者1名、④近所の友人・知人2名、  
⑤ファミリー・サポート2名、⑥留守番8名、  
⑦保護者会へ同行5名、⑧保護者会不参加7名、⑨近隣施設2名  
(その他：学校の時間2名、児童館1名)

- ①預け先がないから13件、②幼稚園に近いから20件、③子どもが安心するから18件、  
④親しい人と一緒に利用したいから10件、⑤他の手配が面倒だから5件、  
⑥料金が手頃だから1件、⑦お試し利用として14件

#### (2) 利用の満足感 ※利用者33名が回答

「利用料金は適切だった」以外、4点前後の満足感を得られた（Figure 1）。



※図中数字：「5：とてもあてはまる」  
「4：あてはまる」  
「3：少しあてはまる」  
「2：あてはまらない」  
「1：まったくあてはまらない」

Figure 1. 満足感の記述統計量

#### (3) 非利用理由（複数回答可） ※非利用者97名が回答

- ①父親にお願いしたから11件, ②祖父母等にお願いしたから46名,  
 ③他学年の保護者にお願いしたから6名, ④近所の友人・知人にお願いしたから3名,  
 ⑤未就園児利用不可のため2名, ⑥近隣施設を利用したから2名,  
 ⑦「預かり保育」の料金が高いから40件, ⑧評判を聞いて利用を検討したいから4名  
 ⑨保護者会不参加11件  
 (その他: タイムロス3名, 信頼できない2名, 留守番可能と判断2名,  
 子どもが行きたくないと言ったから1件, 上手に遊べる子がいないから1件)

(4) 信頼感の変化「預かり保育実施前と現在においてどの程度感じているか？」

- ①幼稚園への信頼感：基本的に高い。事前・事後，利用者・非利用者の差はない
- ②保育園への信頼感：事前・事後の変化は無いが、利用者の方が非利用者より高い
- ③子育て支援への理解：利用者・非利用者の違いなく、事後の方が事前より高い

⇒幼稚園への信頼感は、事前・事後の変化はないが、基本的に高く、保育園への信頼感は、利用者の方が非利用者よりも高い（保育園を信頼できる方が預かり保育を利用した可能性）。子育て支援活動への理解は、利用者・非利用者の差はなく、一様に事前よりも事後の方が高い（Figure 2～4）。

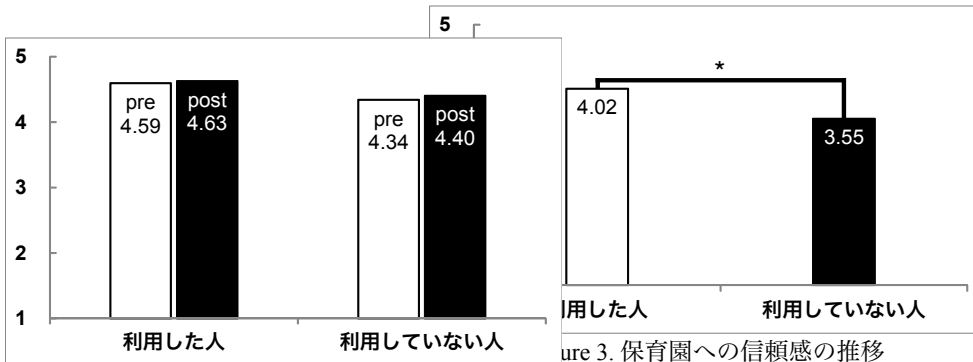


Figure 2. 幼稚園への信頼感の推移

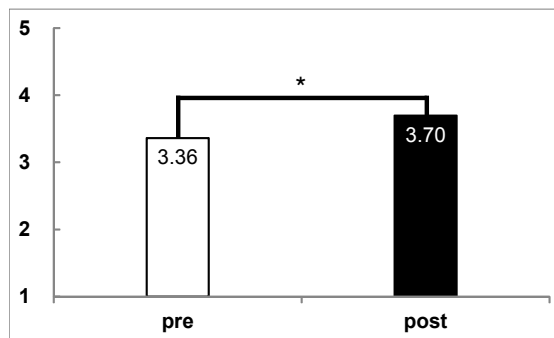


Figure 4. 子育て支援活動への理解度の推移

※図中数字：「5：とてもあてはまる」「4：あてはまる」「3：少しあてはまる」  
 「2：あてはまらない」「1：まったくあてはまらない」

4. 育児感情の変化「預かり保育実施前と現在においてどの程度感じていましたか？」

(1) 育児感情尺度の因子分析結果

解釈可能な3因子（「時間的束縛感」「育児負担感・不安感」「育児肯定感」）が抽出された（Table 1）。以後は、それぞれの尺度得点を用いて分析した。

→除外項目「預け先を探すことがなく、イライラしない」は単一項目として分析

Table 1. 育児感情尺度 因子分析結果

質問項目	I	II	III	共通性
<b>I. 時間的束縛感 (α=.84)</b>				
1人になれる時間がないと感じる	.898	-.018	-.003	.795
自分の時間がないと感じる	.888	-.031	.021	.765
子どものために仕事や趣味を制約されると感じる	.581	.161	-.023	.439
<b>II. 育児負担感・不安感 (α=.79)</b>				
子どもを育てることが負担に感じる	.027	.898	.008	.819
子どものことを考えるのが面倒になる	-.014	.864	-.030	.761
育児に自信が持てない	.059	.476	.001	.250
<b>III. 育児肯定感 (α=.77)</b>				
子どもをそだてることは有意義ですばらしいことだと思う	-.021	.163	.948	.793
子どもを育てるのは、楽しいと感じる	-.062	-.105	.675	.546
子どもを育てることで自分も成長しているのだと感じる	.115	-.222	.517	.398
<b>除外項目</b>				
預け先を探すことがなく、イライラしない				
<b>因子間相関</b>				
	I	—	.373	-.111
	II		—	-.433
	III			—

(2) 育児感情の変化：子育て支援としての「預かり保育」の効果（Figure 5～9）

- ① 「時間的束縛感」は、事前・事後で減少した。
- ② 「育児負担感・不安感」は、預かり保育の利用者のみ、事前・事後で減少した。
- ③ 「育児肯定感」は、事前・事後で変化がなかった。
- ④ 「預け先を探すことなく、イライラしない」は、預かり保育の利用者・非利用者のどちらとも、事前・事後で増加した（「イライラしない」ようになった）。

⇒預かり保育の実施により、利用者の「育児負担感・不安感」の軽減がみられた。また、全保護者が、子どもの預け先を探すイライラ感をあまり抱かなくなったことも分かった。一方で、「育児肯定感」を高める効果はみられなかった。

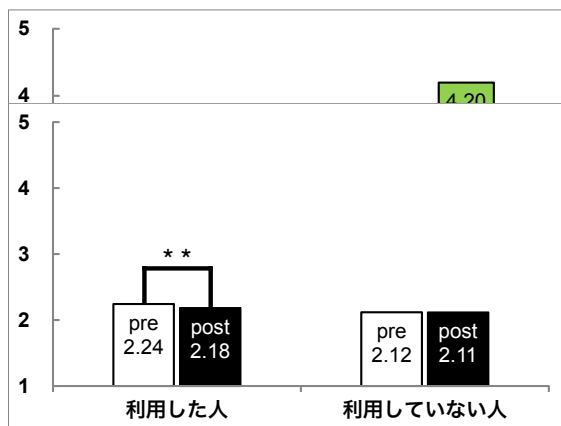


Figure 7. 「育児負担感・不安感」の推移

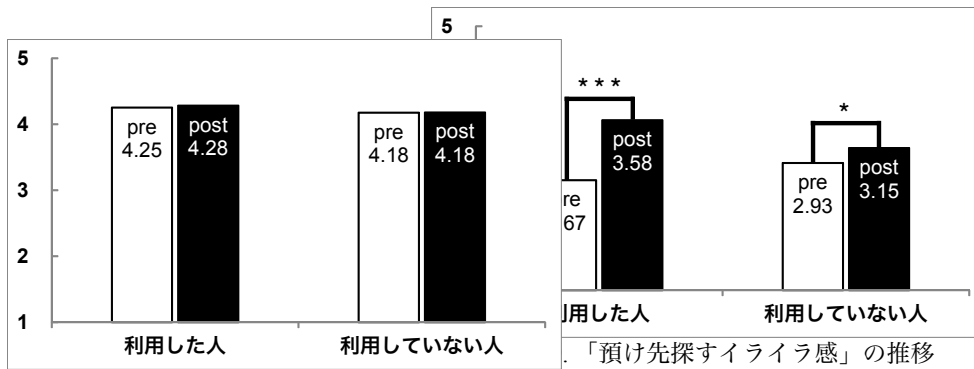


Figure 8. 「育児肯定感」の推移

※図中数字：「5：とてもあてはまる」「4：あてはまる」「3：少しあてはまる」「2：あてはまらない」「1：まったくあてはまらない」

## 5. 今後の利用

### (1) 条件付きの利用の有無

各条件付きの利用の有無はTable 2にある通り。

Table 2. 条件付き利用の有無

	①近隣施設より高料金	②園外施設（大学構内）	③保育園の先生以外	④未就園児の利用不可
利用する	71	98	102	59
利用しない	59	33	29	56
合計	130	131	131	115

【参考】 ニーズ調査時の結果

	①近隣施設より高料金	②園外施設（大学構内）	③幼稚園の先生以外	④子守りのなもの
利用する	106	125	123	130
利用しない	28	9	10	4
合計	134	134	133	134

### (2) 金額に基づく利用の有無

金額の上限を条件とした利用有無はTable 3にある通り。今回の設定料金を境界線として利用の有無が変動する可能性が考えられた。

Table 3. 金額に基づく利用の有無

	①500円	②1,000円	③2,000円	④3,000円	⑤4,000円
利用する	130	124	60	10	2
利用しない	1	7	67	118	126
合計	131	131	127	128	128

### (3) 優先順位

今後、預け先を検討するときの優先順位の結果はTable 4にある通り。

Table 4. 優先順位の割合

子どもを預ける先	1位		2位		3位		4位		5位		6位		7位	
	数	%	数	%	数	%	数	%	数	%	数	%	数	%
祖父母やおじ・おば等の親族	55	45.8	28	23.3	11	9.2	8	6.7	6	5.0	10	8.3	2	1.7
両親のどちらか	34	27.0	38	30.2	16	12.7	7	5.6	19	15.1	11	8.7	1	0.8
他学年や知人等の保護者間	9	7.0	10	7.8	38	29.7	39	30.5	26	20.3	6	4.7	0	0.0
ファミリー・サポート	3	2.4	9	7.1	10	7.9	35	27.8	39	31.0	29	23.0	1	0.8
きょうだい、もしくは一人で留守番	4	3.3	6	4.9	10	8.2	17	13.9	22	18.0	61	50.0	2	1.6
預かり保育	24	18.6	34	26.4	40	31.0	21	16.3	10	7.8	0	0.0	0	0.0
近隣施設	3	30.0	3	30.0	3	30.0	0	0.0	0	0.0	1	10.0	0	0.0

以上